

優しい風の吹く街



10/1 大阪万博公園「太陽の塔」

今年の夏は9月末まで猛暑が続きましたが、ようやく秋らしくなって来ました。

9月議会では水道料金改定の条例改正案を可決しました。値上げは来年4月から二段階で進めますが、市議会は市民の理解を深めるためにさらなる説明を求める決議案も可決しました。また、財政状況が厳しい中、子育て支援を進めようとする市の

姿勢に応えるため、議員報酬を5%自主的にカットすることも決めました。これからも市民の皆さまに信頼される議会をめざして頑張ります。

活動報告

<7月>

7日 ひょうごヒューマンライツ議員の会

20日 自治功労者会

25日 総務常任委員会行政視察（茨城県・石岡市）

26日 総務常任委員会行政視察（千葉県・千葉市）

29日 宝塚市議会議会報告会

<8月>

2日 立憲民主党自治体議員会議（東京）

3日 日教組両性の自立研究会（東京）

4日 高校生平和大使・尼崎市市長表敬訪問

6・9日 宝塚市平和の黙とうと「平和の鐘」打鐘

20日 政策要望意見交換会

21日 宝塚市子ども議会

26日 犯罪被害補償を求める会

9月1日～10月10日 9月定例会

ドローンを利用した茨城県・石岡市のまちづくり



災害救助や生態確認、輸送物流、インフラ点検など、活用される分野が年々拡大している

1、視覚障がい者の福祉サービスと同行援護

<質問>

『視覚障がい者にとって「同行援護」は自分の人生をあきらめないで、地域で生きていける希望の要である』と当事者の言葉を聞いた。しかし同行援護の利用は少ない。理由は何か。

<市長答弁>

本年3月末時点における視覚障がいの手帳所持者は541人であるのに対し、同月の同行援護の利用者は43人で、その割合はおよそ8.1%であった。眼鏡などの補装具使用で移動可能な人も含まれていることが要因の一つと考えている。今後は同行援護を含む障がい福祉サービスの周知に努める。

<質問>

障がいに高齢化が重なり「要介護の認定」を受けた視覚障がい者は介護サービスの通院利用と決められており、同行援護は利用できなくなる。だが医療機関内での介助やサポートは忙しくしている病院スタッフに気軽に頼めないのが現状だ。当事者の不安解消策はあるのか。

<市長答弁>

障がい福祉サービスと介護保険サービスについては原則として介護保険が優先されることから、要介護認定を受けた高齢者は、介護保険サービスで通院に関する介助を受けていただくことになる。ただし、介護保険適用以前から障がい福祉サービスの支給決定を受けており、介護保険制度へ移行したことによって、それまで受けていたサー

ビスの量が確保できないような場合には、不足分について障がい福祉サービスでの支給決定を行う。また、医療機関内における介助についても、個別の理由により特別に必要とされる場合には、ヘルパーによる支援も認めている。



<質問>

ガイドヘルパーの労働条件において、通院等の待機時間の点数が加算されず、ガイドヘルパーの収入が激減し成り手不足になっている。改善策は。

<健康福祉部長答弁>

法定サービスの枠組みがあり難しいが、個々の事情を聞き、きめ細かく対応していきたい。

<質問>

障がい者のスポーツの機会確保についてどのように考えているか。

<教育長答弁>

宝塚市立スポーツ施設条例に基づき障がい者団体に対するグラウンドや体育館、駐車場の利用料金の免除のほか、屋内プールの利用では、障がい者本人と付添者の料金の5割減額を行っている。市立スポーツ施設で障がい者がスポーツを楽しむ更なる機会確保を指定管理者とともに協議していく。



2、LGBTQ+の差別解消と人権擁護について

<質問>

パートナーシップ宣誓制度とファミリーシップ制度の他市との連携及び制度の拡充の進捗状況は。

<市長答弁>

阪神・丹波9市1町によるパートナーシップ宣誓制度の協定書に基づく連絡会において、効果的な取組課題の意見交換を定期的に行っている。8月末には兵庫県パートナーシップ制度検討に係る有識者等ヒアリングにおいて意見交換を行い、本市から県内の医療機関や関係団体への制度周知に向けた要望を行った。今後は、宝塚市人権審議会を経て要綱を改正し、制度の拡充を進めていく。

<質問>

LGBTQ+が自分の性的指向や性自認（ジェンダーアイデンティティ）に気づく時期には個人差があり、小学校入学前ということもある。幼少期から自己肯定感を持てず、周りの無理解や偏見に

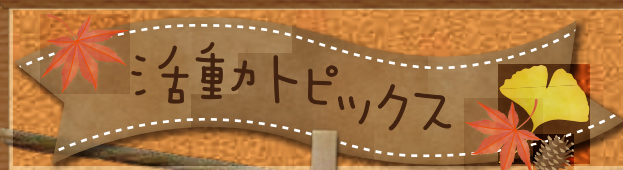
揺れ動く子どもたちの実態把握と、その生きづらさを解消する、課題解決のための取組は。

<教育長答弁>

教育委員会では、学校園を通じて性的指向、性自認において違和感を感じながら生活している子どもたちを把握するとともに、子どもたちの様子や学校園の取組などについて共有し、学校園と教育委員会が連携して見守りを継続している。また、性の多様性についての正しい知識を子どもたちに指導するための教職員用の手引書改訂版を作成し、今年度末までに改訂版を学校園へ配布する。



LGBTQ+の子ども・若者は「孤立・孤独のハイリスク層」しっかり支援を!



9/1 雪の日に転倒者続出だった
小林駅前の凸凹坂道が改善された。



9/15 「ストップ! 気候危機」
宝塚市役所前アクション

3、中央教育審議会・特別部会提言を受けて

<質問>

2023年8月の中央教育審議会・質の高い教師の確保特別部会は「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」を公表。「教師を取り巻く環境は、我が国の未来を左右しかねない危機的状況にあると言っても過言ではない」として緊急的に取り組む施策を取りまとめ、小学校高学年の教科担任制にかかる加配の前倒し配置や支援スタッフの充実等が提言されている。改めて、未配置問題についての市の対策は。

<教育長答弁>

- 教職員のイメージアップデザインの臨時講師募集チラシを作成し市内広報板などに掲示
- 市ホームページのみならず、民間の就職支援サイトにも教員募集記事を掲載
- 市公式LINEやあらゆる媒体で募集案内
- 本市と包括連携協定を締結している大学や教職員を輩出している大学と連携し人材確保
- 県に対して新規採用教職員の確保など、定数を満たすための予算措置を要求
- スクール・サポート・スタッフの配置充実
- 教職員の業務の適正化
- 働き方改革の実効性の向上

<質問>

各校の教育課程を見直し、カリキュラム・オーバーロードを改善することも提言されているがこの問題についてどのように考えているか。

<教育長答弁>

部活動の地域移行をはじめとする今日的課題に取り組み、教職員の勤務時間の適正化を進めている。カリキュラム・オーバーロードについても具体的な改善策を検討していく。

<質問>

学校では解決できない法的対応等についてスクールロイヤーに相談できないか。

<教育長答弁>

現在本市では子どもの最善の利益を守るためスクールロイヤーを配置しており、子どもをめぐる学校からの相談に対して、法的な観点からの助言を得ることで問題の早期解決にもつながるほか教師の対応力の強化にもつながっている。



風のこころ

9月宝塚市議会：「安心を実感できる子育て施策の推進を求める決議」

この決議は常任委員会の提案だったが、女性議員から出せばいいのではと途中で混乱した。しかし私は唐突なすり替えには賛成できず、代表者会で文言修正案を出し、双方が歩み寄る形で議会統一の合意形成ができた。対話による「合意形成の努力」をこれからも大切にしていきたい。